ふるさと散歩
Furusato-sampo

撮影：えびの高原キャンプ場付近（平成20年7月1日）

「ニホンジカ」

花の季節が終わり、動物たちにはちょうどよい静けさ。たくさんの生命が誕生しています。

えびの高原の年間降水量は約4800m。日本で最も雨の多い地域の一つです。梅雨の間は山麓以上に雨が激しく降り、濃い霧が漂っています。花の季節も終わり、訪れる人の少ないえびの高原ですが、動物たちにはちょうどよい静けさなのかもしれません。

ニホンジカ（亜種キュウシュウジカ）はえびの高原にもたくさん生息し、身近に会うことのできる動物です。ちょうど梅雨のころ、出産期を迎えます。生まれて間もない子ジカは、じっと草やぶに隠れていて母ジカが帰ってくるのを待っていますが、じきに母ジカと一緒に行動するようになります。子ジカは小型犬ほどの大きさで、すらっと足が長く、目が大きくてとてもかわいらしいです。背中は木漏れ日になじむ鹿の子（かのこ）模様。静かに観察していると、乳を飲んだり、遊んだりしている様子を見ることができます。

一方でニホンジカによる森林や農地への食害は深刻な問題で、その対策が大きな課題となっています。

（文／えびのエコミュージアムセンター）

ニホンジカ　偶蹄目シカ科
Cervus nippon

発行／えびの市役所　編集／企画課情報係　宮崎県えびの市大字栗下1292番地
☎0984-35-1111　URL http://www.city.ebino.lg.jp/
VEGETABLE OIL INK